

WEEKLY SIGNAL

平成28年9月16日(金) 1341号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/19(月)	9/20(火)	9/21(水)	9/22(木)	9/23(金)
無担保O/N		△0.086% ~ 0.001%			
銀行券		△200	ト ン		△1,000
財政他		+33,200	△1,000		+1,000
資金需給		余33,000	不1,000		ト ン
主要要因		国庫短期証券発行・償還(3M・1Y) 国債発行(5、10、20、30年) 国債償還(5、10、20、変動15年)			
オペ期日		共通担保(全店) △1,700 CP等買入 △1,400 社債等買入 △400 国債補完 +600			被災地支援 +800
オペスタート	休日	共通担保(全店) +4,500 ETF買入 +100	国債買入 +8,900 短国買入 +12,500	休日	被災地支援 △1,000
(日本)		日銀、金融政策決定会合(21日まで)	日銀、金融政策決定会合結果、総括的検証の公表 黒田日銀総裁会見 全国スーパー売上高(8月) 百貨店売上高(8月)		日銀営業毎旬報告(9月20日現在) 日本銀行が保有する国債の銘柄別残高 日本銀行による国庫短期証券の銘柄別買入額
(海外)	米 NAHB住宅市場指数(9月)	米 FOMC(21日まで) 米 住宅着工件数(8月)	米 FOMC、声明と経済予測(SEP)発表 米 イェンFRB議長会見	米 週間新規失業保険申請件数(9月17日終了週) 米 中古住宅販売(8月) 欧 ECB経済報告 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数(9月、速報値) 欧 ドラギECB総裁講演(フランクフルト)	米 ファイデルフア、グループランド、アトランタの各地区連銀総裁討論会

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.06 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.06 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債発行等財政要因により、先週末対比2兆3,100億円減少の302兆600億円から始まった。その後、国債・国庫短期証券買入オペや貸出増加支援資金供給等により増加し、週末には306兆6,900億円となった。無担保コールON物は、週を通して△0.085~△0.03%で取引された。同加重平均金利は、週初から積み最終日にかけて調達意欲が減退したことから低下基調を辿り、15日には5月11日以来約4カ月ぶりの低水準となる△0.065%となった。なお、新積み期となる16日は、小幅上昇し△0.06%となった。ターム物は、新積み期スタートの1W物を中心に△0.04~△0.03%で取引された。16日に実施された国庫短期証券買入オペは前週分(9日オファー、オファー額1兆2,500億円、応礼倍率2.02倍)と同額でオファーされ、応礼倍率は1.74倍とやや低下する結果となった。来週は、20、21日に国内では日銀金融政策決定会合、海外ではFOMCがあり、結果が注目される。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.350 ~ △0.250
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約6,900億円で、期落ち額約9,100億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。大型発行案件も散見されたが、社債発行の為に期日償還を迎えた案件も多く、発行減少となった。a-1格相当銘柄の期間の長い入札発行レートについては、ディーラーの強い札が散見され、0%割れでの出会いもあった。現先レートの中心は、-0.100%~0.000%程度で推移した。

<TDB>

15日に国庫短期証券3M第634回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.3363%(前回債△0.2645%)、平均落札レートは△0.3549%(同△0.2817%)と前回債と比べて利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.375%近辺の地合いとなっている。6Mは目立った出合は見られず、1Yは△0.37%近辺の地合いであった。来週20日に3Mの入札が予定されている。

<レボ>

足許GCは、積み最終日前にSNでの資金調達を手控える動きが見られ、週前半は△0.10%近辺から一部△0.30%台での出会いとなるなど、非常にボラティルな展開となった。新積み期にかかる16日受渡しでは△0.09%台での出会い。国債の大量発行日となる20日受渡しでは△0.08%台にレートが上昇、週末には短国・国債買入オペが合計2兆1,400億円オファーされたが、ほぼ同水準を維持し越週した。SCは10年341回債がタイト化し、週を通して△0.50~△0.60%での出会いとなった。その他2年366・367回債、5年127・128回債、10年325・327・328・329・330・332・336・340・341・343回債、20年153・154・155・156・157回債、30年48・49・50・51回債、40年9回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。